

「自転車には、色々なルールがある」

小名浜西小学校 5年 蛭田 愛梨

私は、夏休み中にテレビで自転車の事故やお出かけをしているときにスマホを持ちながら自転車に乗っている人を見かけました。これから自転車に乗る機会も多くなるので、お父さんといっしょに市役所から交通安全の本をもらってきました。その本を読んで思ったことは、自転車も車やバイクと同じようにルールがたくさん書いてあり、とくに大事なことは、三つありました。

一つ目は、「車道のルール」です。車道では、左側のはしを走ることです。理由は、右側走行で交差点に差しかかると、交差道路を走る車の運転者の視界に入りにくく、とてもきけんだからです。そのため自動車やバイクと同じ方向に通行しなければなりません。なので、私も自転車に乗るときは、車道の左側を走りたいと思いました。

二つ目は、「急な進路変更はしない」です。理由は、車道のはしで止まっている車をさけるために車道の中央までふくらんでしまうと、後ろの車がおどろくからです。なので進路変更をするときは、後ろや周りを見てから曲がるようにしようと思いました。

三つ目は、「必ず止まって安全確認」です。なぜかという、止まれの標識があるのに一時停止をしなければ自動車や歩行者にぶつかってしまうからです。自転車での交通事故の多くは、「一時不停止」が原因だそうです。また、事故が起きてしまっているのは、三年生で六十パーセント、四・五年生で七十パーセント、六年生で八十パーセントで学年が大きくなるにつれて高くなっていました。私はそれを知って学校の友達や先生たちに伝えたいと思いました。また、歩道を自転車で通るときにも「歩道は歩行者優先」というルールがありました。自転車は、歩行者に道をよけてもらうためにベルを鳴らしたり、歩行者のすぐ脇をすり抜けたりするのはよくないと思いました。そのため、歩行者が多い時は自転車から降りて押しながら通ります。

この前、歩道を三列で歩いている中学生の後ろから自転車が来ました。だけど中学生が三列だったので自転車が通れずぶつかりそうになっていました。それを見て私が思った事は自転車に乗っている人が「どうしよう」と思ったと私は思うし、三列になっている人も危ないと思いました。なので歩道を歩く時は絶対に道をふさがないように気を付けようと思いました。

お父さんが車を運転している時に、自転車の事で危ないと思った事を聞いてみたらお父さんが仕事から車で帰るとちゅうに自転車のライトをつけずに走っていたのを見かけたり、ヘルメットをかぶらずに道幅に広がって何台かで走っていたと聞いて私は、ライトをつけずに走ると車を運転している人もびっくりすることが分かりました。それに道幅に広がっていると前や後ろから車が来たときによけられないので危ないと思いました。

自転車に乗ると速度が出て楽しいけれど、いっしゅんの出来事で大きな事故につながる可能性があるのでルールを守って走る事は、当然だけど予想がつかない事もあるので、ヘルメットを正しくかぶり、またスピードを出しすぎず、すぐ止まれる速度で走ります。

私はまだ、自転車をすいすいと乗れるようには、なっていないので夏休みを使って練習しています。乗れるようになったらまずは近くの図書館に行ってみたいです。練習の時は「速く走ること」よりも「安全に走ること」を大切にしています。

交通安全は自分の命を守るだけでなく家族や友達、大切な人の笑顔を守ることに繋がります。これからも「安全」をわすれずに練習を続けていきたいと思っています。